

**E—33 マレー人社会における婚姻の慣習とその
特質**

—東南アジアにおける家族様式の
研究—

愛知女大家政 戸谷 修

(1) 本報告は、昨年の報告「マレー人社会における離

婚とその社会的基盤」の続編であり、今回の報告は、民族文化のパターンを端的に示すといわれる婚姻の慣習を解明することによって、マレー人社会における生活構造の具体的把握を試みたものである。なお、本研究を通して、東南アジア地域の双系的家族の構造的特質の一端を解明した。

(2) この報告の基礎となる資料は、1965年、報告者が現地で行なった実態調査、収集したマレーシア政府の諸統計および現地の法規である。なお、今回の報告対象は、マレー人の大部分（約80%）が居住する稲作農村地域である。

(3) 本報告で明らかにした点は、男女間に社会的分業が強固なところでは初婚年齢は早くならざるをえないこと、イスラム文化を十分消化しえなかったところでは結婚儀礼に見られるように儀礼の二重化が行なわれていること、また家族形態の双系制は婚姻後の居住地の選定や通婚圏に決定的な役割を果していること、その他、再婚および複婚についての諸問題である。

なお、今後、マレー人の家族様式を根本において規定してきた双系制を基盤とする親族組織を、明らかにしていきたいと考えている。この解明は、近代化によって、彼らの生活構造がどのように変化していくかを洞察するためにも重要であるからである。